右の言明をなしたるに對し、坑夫側は坑内の不平や前回の爭議の解決案不履行等に就き攻撃したるも炭坑側の態度強硬なる爲激論の末十一時退去した。

3 第二回會見まで

第一回の會見に於て何等得るところのなかつた坑夫側では福岡地方無產團体の應援を受け、爭議基金後の發行、爭議新聞の印刷配布をなし、或は行商隊を組織して近郊の日用品行商に、ビオニール結成準備（警察當局より中止せしめらる）等愈々持久戰に入つたのである。而して十四日午後七時男女約七十名（家族も加はる）は炭坑事務所に押しかけて座り込み戰術に出てたので、警察當局の勸示と炭坑側の會見回答にて午後十時半頃退散した。

かくて十五日午前九時より第二回の勞資會見となりたるも、會社側は、爭議主謀者を解雇し不良分子一掃の旗にして、前





記解雇を申渡したる主謀者との交渉を辯避け新なる交渉委員に非らざれば之に應ぜずとなし、且つ第一回會見の際の回答案以外に解決案なしとて頑に妥協の色を示さないので、坑夫側は激昂して益々擲拗に抗爭を續くることになつたのである

4 第三回會見まで

勞資の關係漸次險惡化し、爭議團側では十八日午前五時の入坑時に當り二十六名の團員が二列隊を作りて勞働歌を高唱しつゝ、入坑々夫の周圍に迫りて其の入坑阻止の不穏行動に出てんとして三名檢束された。

一方炭坑側では二十一日朝に至り無斷使用の理由を以つて團員行商出發後の手薄に乘じて爭議團事務所を閉鎖して外部より釘付を爲し、且つ隣岡市より石炭積込請負業藤組の仲仕約二十名を傭入れて之に勞務係並に本社より西下せる者等を合し約四十名を以て警備團を組織したのである。かくて爭議團